

## 10 . 応用生物科学部

|                 |                 |         |
|-----------------|-----------------|---------|
| 応用生物科学部の教育目的と特徴 | ・ ・ ・           | 10 - 2  |
| 「教育の水準」の分析・判定   | ・ ・ ・ ・ ・       | 10 - 3  |
| 分析項目 教育活動の状況    | ・ ・ ・ ・ ・       | 10 - 3  |
| 分析項目 教育成果の状況    | ・ ・ ・ ・ ・       | 10 - 11 |
| 「質の向上度」の分析      | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 10 - 16 |

## 応用生物科学部の教育目的と特徴

- 1 応用生物科学は、生物と生命に関する学理と技術を究明し、得られる成果を生物産業に応用することを目指す総合科学である。応用生物科学部は、その歴史と特性を活かし、応用生物科学の教育と研究を通して人類の幸福、とりわけ持続的生存と生活環境の向上に貢献することを理念とする。
- 2 本学部憲章の教育目標では「凜乎真摯と自化自育の精神を育み、倫理性を背景に、科学的な思考能力と応用生物科学に関する高度な技術と体系的な知識を身につけた人材を育成する」を掲げている。
- 3 本学部は以下のような能力を養うための教育を組織的に展開し、広く生物科学・生命科学や関連産業に貢献できる人材を養成する。
  - a. 生物科学・生命科学の学理を究明する力
  - b. 変貌する社会環境に対して主体的に対応する力
  - c. 変貌する社会において自ら将来の課題を設定する力
  - d. 幅広い視野・経験と広い専門的知識に基づき柔軟かつ総合的な判断を自ら下す力
- 4 応用生命科学課程は、生物系有用物質の探索・設計・合成、生物機能を利用した有用物質の生産および環境修復、機能性食品の開発、食品の安全性確保、食品製造技術の向上など、食・健康・環境に関連する分野で活躍できる人材を養成する。
- 5 生産環境科学課程は、分子から生態系までの生物学の幅広い階層とそれを取り巻く環境についての学理の探求を通じて、植物・動物・微生物の機能開発、生物の保全、生物生産技術の開発、生態システムの分析、農地・森林・流域の管理手法の構築など「生物生産」と「環境保全」に関する専門能力を持った人材を養成する。
- 6 共同獣医学科は、小動物および産業動物の診療、家畜衛生および公衆衛生、さらに野生動物保護管理、基礎医学など多岐にわたる獣医師の職務を遂行するために必要な基本的知識・技術を身につけ、国民生活の安全を保障する実践的能力およびグローバル化する国際社会への対応能力を備えた人材を養成する。

### [ 想定する関係者とその期待 ]

想定する関係者は、卒業後に農業関連産業、食品関連産業、環境関連産業、医薬品関連産業、獣医師産業などの産業界及び関連の国・地域自治体に就職して活躍しようとする高校生とその保護者、応用生物科学部での教育内容を評価して卒業生の受け入れを希望する上記関係者である。

活躍が想定される生物産業・関連機関として、公的な分野も含め、食料の安定供給をつかさどる農業分野に加えて、その環境を維持・保全する生態環境保全分野、バイオマス資源の利用と開発などの生物環境産業分野、安全な食品や高機能性食品の製造開発などの食品関連分野、さらに生命現象の解明に基づいた新たな医薬品開発分野、公衆衛生、家畜衛生及び獣医療を担う獣医学分野などを挙げることができる。いずれも人類の幸福、とりわけ持続的生存と生活環境の向上には不可欠な分野であることから、応用生物科学に関する科学的な思考能力と高度な技術と体系的な知識を身につけ、これら分野で活躍する人材養成に対する社会からの期待は大きい。また、我が国の喫緊の課題である地域の活性化の鍵を握る分野でもあり、地域を志向する実践的専門職業人を育成することに対しても、大きな期待が寄せられている。

「教育の水準」の分析・判定

分析項目 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

(1) 教育組織の編成

本学部は、図1-1-1のとおり2課程・1学科を置き、学生の収容定員は840人である。2課程は4年制、共同獣医学科は6年制の教育を実施している。

応用生命科学課程は、生命科学を応用し生物産業界に貢献する教育組織であることなどを踏まえ、平成23年度に食品生命科学課程から名称変更したものである。また、共同獣医学科は、鳥取大学と共同で平成25年4月に設置したものであり、鳥取大学の共同獣医学科の学生の収容定員210人と合わせて400人の学生を対象に、両大学の共同獣医学科教員が共同で教育を行っている。

| 2章 教育研究上の基本組織<br>第1節 学部、研究科等<br>(学部及び学科・課程)<br>第3条 本学に、次の学部を置き、学部に次の学科・課程を置く。<br>(略)<br>応用生物科学部 応用生命科学課程<br>生産環境科学課程<br>共同獣医学科<br>(略)<br>第3章 学部教育<br>第1節 教育組織、修業年限及び在学期間等<br>(教育組織、入学定員及び収容定員)<br>第15条 学部の教育組織、入学定員、3年次編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。 |                           |            |          |              |
|---|---------------------------|------------|----------|--------------|
| 学部  | 学科又は課程                    | 入学定員       | 3年次編入学定員 | 収容定員         |
| 応用生物科学部   | 応用生命科学課程                  | 80         | 5        | 330          |
|   | 生産環境科学課程                  | 80         | 5        | 330          |
|   | 共同獣医学科<br>(鳥取大学農学部共同獣医学科) | 30<br>(35) |          | 180<br>(210) |
|   | 計                         | 190        | 10       | 840          |
| 備考 応用生物科学部における( )は、本学と共同獣医学科を設置している鳥取大学農学部共同獣医学科の入学定員及び収容定員であり、外数とする。   |                           |            |          |              |

図1-1-1 応用生物科学部の教育組織

(2) 教員組織の編成

本学部は、広く生物科学・生命科学の関連産業・関連機関に貢献できる人材の養成を目的としており、各課程・学科では表1-1-1に示す教育目的を掲げている。これらの目的を達成するため、表1-1-2のとおり専任教員を配置している。さらに、必要に応じて非常勤講師を加え、より専門性の高い多彩な教育を可能としている(表1-1-3)。

共同獣医学科では、鳥取大学の教員35人を加え66人の教員により共同での獣医学教育を行うことにより、専門性に特化した幅広い教育を実施している。また、両大学に共同獣医学教育推進センターを設置し、共同教育の効果的かつ円滑な推進を図っている。

表1-1-1 岐阜大学応用生物科学部の課程・学科の教育目的

| 課程及び学科   | 教育目的  |
|----------|---|
| 応用生命科学課程 | 応用生命科学課程は、生物系有用物質の探索・設計・合成、生物機能を利用した有用物質の生産及び環境修復、機能性食品の開発、食品の安全性確保、食品製造技術の向上など、食・健康・環境に関連する分野で活躍できる人材を養成します。   |
| 生産環境科学課程 | 生産環境科学課程は、分子から生態系までの生物学の幅広い階層とそれを取り巻く環境についての学理を教育します。それによって、植物・動物・微生物の機能開発、生物の保全、生物生産技術の開発、生態システムの分析、農地・森林・流域の管理手法の構築など「生物生産」と「環境保全」に関する専門能力を持った人材を養成します。 |
| 共同獣医学科   | 共同獣医学科は、小動物及び産業動物の診療、家畜衛生及び公衆衛生、さらに野生動物保護管理、基礎医学など多岐に渡る獣医師の職務を遂行するために必要な基本的知識・技術を身につけ、国民生活の安全を保障する実践的能力及びグローバル化する国際社会への対応能力を備えた人材を養成します。                  |

(出典：岐阜大学応用生物科学部の教育目的を定める細則)

表1-1-2 応用生物科学部の教育組織表

| 所属       | 教授     | 准教授 | 助教 | 特任教員 | 計  |
|----------|--------|-----|----|------|----|
| 応用生命科学課程 | 分子生命科学 | 6   | 8  | 0    | 14 |
|          | 食品生命科学 | 7   | 3  | 3    | 13 |

岐阜大学応用生物科学部 分析項目

|                    |        |    |    |    |   |     |
|--------------------|--------|----|----|----|---|-----|
| 生産環境科学<br>課程       | 応用植物科学 | 6  | 4  | 2  | 0 | 12  |
|                    | 応用動物科学 | 3  | 5  | 2  | 0 | 10  |
|                    | 環境生態科学 | 9  | 4  | 2  | 0 | 15  |
| 共同獣医学科             |        | 15 | 15 | 1  | 0 | 31  |
| 岐阜フィールド科学教育研究センター  |        | 1  | 1  | 0  | 0 | 2   |
| iCeMS (サテライトキャンパス) |        | 0  | 1  | 0  | 1 | 2   |
| 附属動物病院             |        | 0  | 0  | 2  | 0 | 2   |
| 計                  |        | 47 | 41 | 12 | 1 | 101 |

(出典：応用生物科学部教育組織表 平成27年5月1日)

表1 -1 -3 非常勤講師数の推移 (平成23~27年度)

|           |     |     |     |     |     |     |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|           | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 |
| 非常勤講師数(人) | 44  | 48  | 49  | 47  | 41  | 46  |

(出典：応用生物科学部学務係データ)

本学部の平成27年度の専任教員の内訳は表1 - 1 - 5のとおりである。教員1人当りの学生数は8.87人、教員1人あたり平均1学年2.2人程度の学生を担当することとなり、適正な学生教員比となっている。

表1 - 1 - 4 専任教員配置数及び学生数 (平成27年5月1日)

| 収容<br>定員 | 教員数 |     |    |      |     | 学生数 | 教員一人あたりの<br>学生数 |
|----------|-----|-----|----|------|-----|-----|-----------------|
|          | 教授  | 准教授 | 助教 | 特任教員 | 計   |     |                 |
| 840      | 47  | 41  | 12 | 1    | 101 | 896 | 8.87            |

(出典：応用生物科学部現員表)

(3) 入学者選抜の状況

課程・学科ごとに図1 - 1 - 2に定めた入学者受入方針に従って入学者の選抜を実施している。入学定員は表1 - 1 - 5のとおりである。推薦入学は、専門学科・総合学科枠及びスーパーサイエンスハイスクール・理数科枠(8人)を設けている。特別入試には小論文と面接を課し、学業成績以外の能力を評価することにより多様な人材を選抜できる仕組みとしている。また、私費外国人留学生の選抜では、日本留学試験及び外部英語試験(TOEFL)を課し、入学後の教育に必要な学力の確保を図っている。学部独自で実施する特別入試については、試験終了後に、入試内容、方法等に関する検証を実施し、推薦入試マニュアルの改訂を進めている。このように、本学部では、常に改善を念頭に置いた入試体制の下で、多様な人材を確保するための選抜方法により安定的に人材の確保を行っている。

応用生物科学部は、基礎学力、応用力、論理的思考能力、協調性、自主性、国際性、学習意欲などを判定する、多様な入試制度により入学者を選抜し、以下の目標の達成に強い意欲を持って学習に励む人材を求めます。

- a. 安全かつ安心できる食の安定供給
- b. 高機能性食品の開発と健康の増進
- c. 生物資源・生体成分と生命機能の利活用
- d. 環境と調和した食料生産
- e. 自然生態系および人間の生活環境の修復と保全
- f. 人と動物の健康と福祉の向上

(出典：応用生物科学部ホームページ)

図1 - 1 - 2 アドミッションポリシー

表1 - 1 - 5 応用生物科学部の入学試験と入学定員

| 入学試験     |              | 入学定員(人)  |          |        |
|----------|--------------|----------|----------|--------|
|          |              | 応用生命科学課程 | 生産環境科学課程 | 共同獣医学科 |
| 推薦<br>入学 | 専門*<br>総合学科  | 3        | 5        | -      |
|          | SSH**<br>理数科 | 3        | 5        | -      |

岐阜大学応用生物科学部 分析項目

|        |    |    |    |
|--------|----|----|----|
| 推薦入学   | 10 | 10 | 4  |
| 前期日程   | 54 | 50 | 26 |
| 後期日程   | 10 | 10 | -  |
| 3年次編入学 | 5  | 5  | -  |

\* 専門：農業関連学科

\*\* SSH：スーパーサイエンスハイスクール枠

(出典：平成28年度入学選抜に関する要項)

各入試の倍率は表1-1-6及び1-1-7のとおりであり、一般入試の志願状況は全体で前期日程3倍以上、後期日程11倍以上であり、推薦では概ね2倍以上と適切な選抜が行われている。

表1-1-6 応用生物科学部の各入試倍率の推移(一般入試)

|    | 課程/学科    | H22  | H23  | H24  | H25  | H26  | H27  |
|----|----------|------|------|------|------|------|------|
| 前期 | 食品生命科学課程 | 2.4  | —    | —    | —    | —    | —    |
|    | 応用生命科学課程 | —    | 3.0  | 2.9  | 3.1  | 2.7  | 2.5  |
|    | 生産環境科学課程 | 3.0  | 3.5  | 2.9  | 3.4  | 2.7  | 2.4  |
|    | 獣医学課程    | 5.3  | 7.0  | 6.4  | —    | —    | —    |
|    | 共同獣医学科   | —    | —    | —    | 4.8  | 5.3  | 5.0  |
|    | 計        | 3.1  | 3.9  | 3.5  | 3.5  | 3.2  | 3.0  |
| 後期 | 食品生命科学課程 | 13.1 | —    | —    | —    | —    | —    |
|    | 応用生命科学課程 | —    | 12.9 | 16.4 | 12.9 | 14.1 | 16.1 |
|    | 生産環境科学課程 | 14.5 | 11.7 | 9.0  | 10.2 | 8.6  | 8.2  |
|    | 計        | 13.8 | 12.3 | 12.7 | 11.6 | 11.4 | 12.2 |

(出典：岐阜大学データ集)

表1-1-7 応用生物科学部の各入試倍率の推移(推薦入試)

|      | 課程/学科    | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 |
|------|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 推薦入試 | 食品生命科学課程 | 1.5 | —   | —   | —   | —   | —   |
|      | 応用生命科学課程 | —   | 1.8 | 2.7 | 2.5 | 1.5 | 2.3 |
|      | 生産環境科学課程 | 2.2 | 1.6 | 4.1 | 2.6 | 2.3 | 3.3 |
|      | 計        | 1.9 | 1.7 | 3.6 | 2.6 | 2.0 | 2.9 |
| 推薦入試 | 食品生命科学課程 | 4.4 | —   | —   | —   | —   | —   |
|      | 応用生命科学課程 | —   | 2.7 | 2.7 | 2.1 | 3.1 | 2.1 |
|      | 生産環境科学課程 | 4.2 | 2.9 | 2.9 | 3.9 | 3.0 | 3.8 |
|      | 獣医学課程    | 9.0 | 9.0 | 9.0 | —   | —   | —   |
|      | 共同獣医学科   | —   | —   | —   | 6.5 | 8.3 | 7.3 |
|      | 計        | 5.2 | 3.8 | 3.8 | 3.6 | 3.9 | 3.7 |

(出典：岐阜大学データ集)

(4) 教員の教育力向上、教育プログラムの質保証・質向上の状況

本学部では、教育活動の検証及び改善のため、平成22年度に教育改善室を設置して改善方針を含む検討を行い、各種委員会が実際の改善に取り組んでいる(別添資料1-1-1)。例えば、教育改善室が中心となり、毎月開催される教授会開催前に教育活動の活性化を図るためのFDを開催し(表1-1-8)、年度末には教育に関連する応用生物科学部・応用生物科学研究科合同のシンポジウムを学内に公開して実施している(表1-1-9)。

表1-1-8 教育関連FD一覧(教授会時開催)

岐阜大学応用生物科学部 分析項目

|          |                               |
|----------|-------------------------------|
| 平成 22 年度 |                               |
| 4 月      | 入試に関する F D                    |
| 3 月      | 教育改革 F D                      |
| 平成 23 年度 |                               |
| 4 月      | 大学教育におけるコアカリについて              |
| 5 月      | 平成 23 年度中期目標計画について            |
| 6 月      | 教育評価システムのあり方 ～自己点検評価委員会WGの答申～ |
| 7 月      | 広西大学との間で始まるダブルディグリー制度         |
|          | 大学生基礎力調査からみえる入学生の実態について       |
| 9 月      | ISO14001 取得のための取組説明会          |
| 10 月     | 授業、e-Learning 等の教育活動と著作権について  |
| 12 月     | 大学での相談活動とメンタルヘルス              |
| 平成 24 年度 |                               |
| 6 月      | 認証評価について                      |
|          | 平成 24 年度中期目標計画について            |
| 7 月      | 女性教員比率向上のために                  |
|          | 鳥取大学との共同獣医学科                  |
| 9 月      | ハラスメント防止研修会                   |
| 10 月     | 大学生基礎力調査からみえる学生の傾向について        |
| 11 月     | 学生のメンタルヘルス                    |
| 1 月      | 応用生物科学部に関する情報とその分析            |
| 平成 25 年度 |                               |
| 7 月      | 岐阜大学における知的財産説明会               |
| 11 月     | 学生のメンタルケア                     |
| 12 月     | 産学連携と利益相反マネジメント               |
| 3 月      | 大学生の基礎学力調査報告                  |
| 平成 26 年度 |                               |
| 4 月      | 発達障がい者の修学支援                   |
| 5 月      | 平成 26 年度中期目標・中期計画について         |
| 9 月      | コンプライアンス教育の実施                 |
| 12 月     | 岐阜大学自殺予防 F D                  |
|          | 大学生に多いメンタルの問題                 |
| 平成 27 年度 |                               |
| 5 月      | 各種アンケート解析について                 |
| 6 月      | 情報管理の徹底について                   |
| 7 月      | 障がい者支援について                    |
| 9 月      | 高大接続システム改革会議・中間まとめについて        |
| 9 月      | 知的財産について                      |
| 10 月     | 第 2 期中期目標計画報告                 |
| 1 月      | 学生のメンタルヘルス                    |

( 出典：応用生物科学部教授会記録 )

表 1 - 1 - 9 応用生物科学部・研究科シンポジウム開催一覧

|   |                             |
|---|-----------------------------|
| 平成 23 年度                                    |                             |
| 応用生物科学部・研究科シンポジウム ( 3 月 7 日 13:00 ~ 16:00 ) |                             |
| 日時  | 3 月 7 日 ( 水 ) 13:00 ~ 16:00 |
| 場所  | 応用生物科学部多目的ホール ( 101 講義室 )   |

岐阜大学応用生物科学部 分析項目

|                                    |                               |
|------------------------------------|-------------------------------|
| 1                                  | 大学院教育改革～大学院教育組織の見直し～          |
| 2                                  | 高度専門職業人養成とコア・カリキュラム           |
| 3                                  | 共同獣医学科設置構想                    |
| 4                                  | 教育評価体制の構築                     |
| 5                                  | 教育改善                          |
|                                    | 少人数制による導入教育                   |
|                                    | 入学時の習熟度テストの解析とその活用            |
|                                    | T A制度の活用～アルバータ大学では～（武者修行報告）   |
| 平成 24 年度                           |                               |
| 応用生物科学部・研究科シンポジウム「農学（応用生物学）の使命と展望」 |                               |
| 日時                                 | 10月24日（水）13:30～17:00          |
| 場所                                 | 応用生物科学部多目的ホール（101 講義室）        |
| 1                                  | 科学者の責任と大学の使命                  |
| 2                                  | 農学 in 静岡を考える                  |
| 3                                  | 応用生物学の使命                      |
| 4                                  | 農学・応用生物学の使命（パネルディスカッション）      |
| 平成 25 年度                           |                               |
| 応用生物科学部・研究科シンポジウム                  |                               |
| 日時                                 | 3月14日（金）14:00～16:00           |
| 場所                                 | 応用生物科学部                       |
| 1                                  | 本年度学部運営として取り組んだ内容と解説          |
| 2                                  | 共同獣医学科の教育と運営                  |
| 3                                  | 学生による各種評価・アンケートの活用            |
| 4                                  | 附属岐阜フィールド科学教育研究センターの将来構想      |
| 平成 26 年度                           |                               |
| 応用生物科学部・研究科シンポジウム                  |                               |
| 日時                                 | 2月26日（木）14:00～17:00           |
| 場所                                 | 応用生物科学部                       |
| 1                                  | 本年度学部運営として取り組んだ内容と解説          |
| 2                                  | 初年次教育の改革                      |
| 3                                  | 学生による各種評価・アンケートの活用            |
| 4                                  | 大学院特別教育プログラム                  |
| 5                                  | 第3期中期目標計画に向けた学部の将来構想          |
| 平成 27 年度                           |                               |
| 応用生物科学部・研究科シンポジウム                  |                               |
| 日時                                 | 3月22日（火）13:30～16:00           |
| 場所                                 | 応用生物科学部                       |
| 1                                  | 神戸大学と篠山市との地域連携活動（基調講演）        |
| 2                                  | 応用生物科学部の地域貢献事業                |
| 3                                  | 岐阜県との連携～家畜保健衛生所・食品科学研究所の学内設置～ |
| 4                                  | 大学院の改組と国際化推進                  |
| 5                                  | 初年次教育改革～高大転換・大学導入教育の充実～       |

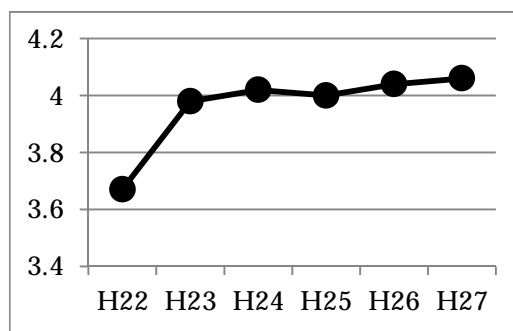
（出典：応用生物科学部教授会記録）

学生による授業評価を検証した後、結果を学部内へ公表し、教員自らの教育改善を促している。また、検証の結果、問題が明らかになった授業に対しては、同室が課程・学科に対して改善を促している。この結果、図1-1-3のとおり、授業評価結果が向上した。

また、高大接続教育を効果的に実施するため、同室が中心となり初年次教育について検討し、新たにレポート作成等日本語教育を実施するなど、初年次セミナーの組織的改革に取り組んだ（別添資料1-1-2）。

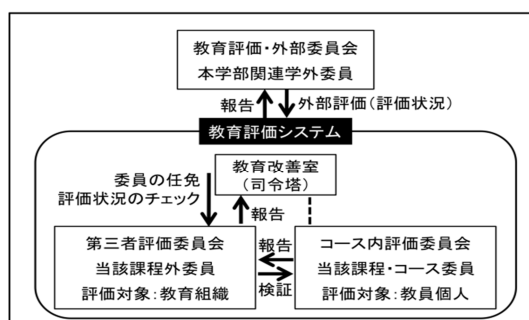
さらに、教育の検証と改善を積極的に推進する仕組みとして、教育改善室の下に教育評価システムを構築した（図1-1-4）。平成26年度には共同獣医学教育に対する教育評価が実施され、第三者教育評価委員会より検証結果が答申書として提出された（別添資料1-1-3）。これを受け、平成27年度に共同獣医学科において改善に向けた人事計画が策定され、公募が行われている。

図1-1-3 授業評価アンケート結果の平均値



（出典：授業評価アンケートの集計値）

図1-1-4



（出典：平成23年度応用生物科学部・研究科シンポジウム資料）

（水準） 期待される水準を上回る。

（判断理由）教育単位であるコース毎にほぼ同数の教員を配置し、教育目的に合致した多様な専門性を有した教員を確保している。また、獣医学教育においては、鳥取大学と共同で教育を行うことにより、幅広い専門性を背景とした教育を可能としている。学生教員比は一学年で各教員平均2人程度であり、学生の個性に配慮したきめ細やかな教育を実現している。

一般入試の志願状況は前期日程において全体で3倍以上、推薦入試では概ね2倍以上であり、適正な入試体制の下で、明確な入学者受入方針に従った多様な人材を確保するための選抜を安定的に進めている。

教育改善室及び教育評価システムという教育の検証と改善に向けた体制が整備され、そのもとに多くのFDが実施され、毎年、教育に関するシンポジウムを公開で開催している。これらの取組もあり、学生による授業評価のポイントも上昇し、教育改善の効果がみられている。さらに、教育検証結果の人事への反映や初年次教育の改革も組織的に推進している。

以上により、取組や活動、成果の状況が優れており、想定する関係者の期待を上回ると判断する。

観点 教育内容・方法

（観点に係る状況）

（1）体系的な教育課程の編成状況

本学部では、教育目的を達成するため、学部及び各課程・学科において学位授与の方針（ディプロマポリシー）を定め、学部ホームページ上で公開している（図1-2-1）。この方針に従って、図1-2-2に示すカリキュラムポリシーを定め、教養的素養、教養基礎、



専門基礎、さらに専門科目群と4つの科目群を編成し、段階的に学習を進めることにより教育目標の達成を図っている。

2つの課程では専門基礎科目群において、5つのコースでは専門科目群において、それぞれカリキュラムポリシーに従った「コア・カリキュラム」を必修科目として設定し、教育目標を見定めた組織的な教育を推進している。共同獣医学科については、「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」を基本に、基盤的能力の涵養とともに、専門性を高める応用科目を配置している。各課程・学科では、カリキュラムの流れを示すロードマップをシラバス上で示している（別添資料1-2-1～1-2-3）。

**(2) 学生の主体的な学習を促すための取組**

本学部は、凜乎真摯と自化自育の精神を育むこと、すなわち、高い倫理性を備え、自ら高みを目指す学習姿勢を涵養することを目標としている。そのため、平成27年度より、1年生前期に開講される初年次セミナーにおいて、これら精神を育む教育を組織的に開始している。

初年次セミナーでは、TA・SAの個別指導の下、日本語運用やレポート作成、倫理をテーマとして学習を進める。さらに、教員や大学院生、留学生による講演を行い、学ぶ動機付けや意欲などを高める内容を加えている。初年次セミナーの授業評価アンケートでは、総合評価として71%の学生が肯定的評価（5段階評価の4以上）であった。これに加え、共同獣医学科では、1年生後期に倫理的思考や科学的レポート作成法、プレゼンテーション能力等をテーマに少人数制指導による教養基礎力養成演習を開講している。

**(3) 地域社会に貢献する人材養成のための効果的な教育方法の工夫**

本学部では、地域に軸足を置いた教育プログラム「地域共学型の風土保全教育プログラム-ぎふ公民館大学-」（平成16年現代GP採択）を開講し、地域と連携した特色ある教育により地域に貢献する人材の養成を進めている。

このプログラムに加え、地域社会からのニーズ・課題に応える人材の養成を目指し、平成26年度より「地域ブランドと地域振興（飛騨牛倶楽部）」を開講している。本プログラムは、集中講義と関連地域での研修から構成され、最後に受講生による報告会を実施している。同報告会には、関係教員だけでなくJ A全農岐阜、岐阜県等の関係者約50名が参加し、学生の発表に対し積極的な質疑・コメントがあった。

**(4) 学生が主体的に学習を行うための英語学習環境の整備**

実践的な英語力を涵養するため、TOEICの得点を上げることを目標に、外部英語学校と共同で、平成25年度から希望者を対象に「TOEICスコアアップ特別講座」を開講している（別添資料1-2-4）。本学部の教室を利用し、一部、本学部後援会から補助金を充当することにより、学生にとって受講しやすい環境を整えている。

平成25年前期には、受講者120人のうち28人が受講前後にTOEIC-IPテストを受講し、得点が平均63点上昇した

応用生物科学部は、以下の5つの素養・力を兼ね備え、「教育理念・教育目標」で掲げられた目標を達成できる総合的な能力を備えている者に対して学士の学位を授与します。

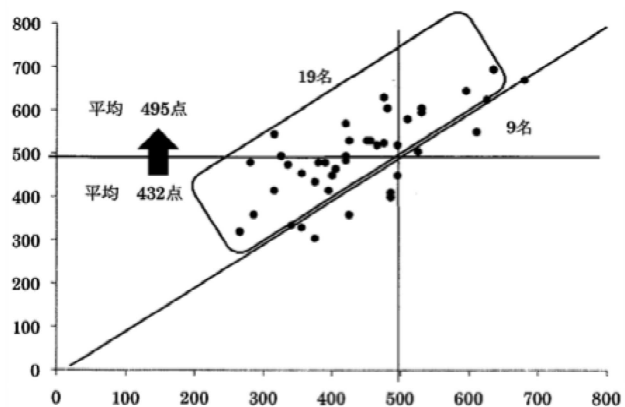
- a. 大学入たるリテラシー（広義）
- b. 一般的な社会通念
- c. 農学系科学における通念
- d. 応用生物科学の学術スキル
- e. 応用生物科学における実践力

（出典：応用生物科学部ホームページ）  
図1-2-1 ディプロマポリシー

応用生物科学部では、基礎学力と社会通念に裏付けられた応用生物科学を以下の4つの科目区分により習得します。

- a. 学士として身につけておくべき教養の素養を習得する「全学共通科目」
- b. 応用生物科学の素養を習得する「教養基礎科目」
- c. 各課程で学ぶための素養を習得する「専門基礎科目」
- d. 各コース教育で習得する専門性を培う「専門科目」

（出典：応用生物科学部ホームページ）  
図1-2-2 カリキュラムポリシー



（出典：平成25年度第10回学部運営会議資料）  
図1-2-3 TOEIC特別講義受講前後のTOEIC-IPテストの結果(平成25年度前期)

(図1 -2 -3)。平成27年からは、本学部の良好な結果を受け、他学部も同様な講座を開講し、新たな実践的英語教育として全学的な拡がりをみせている。

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由) これまで伝統として培ってきた「凜乎真摯・自化自育」の精神性を基に、明確な教育目的を掲げ、学位授与の方針を定めている。これに基づいた教育群の設定により、体系的な教育を可能としている。さらに、各課程・学科の教育体系をカリキュラムマップとしてシラバスに掲載し、学生と教員とが共有できるようにしている。

TA、SAを配置することで少人数の個別指導によりレポート作成や倫理教育など行う初年次教育を実施し、大学における主体的な学習への導入を組織的に図っている。

これまで実施してきた「風土保全プログラム」の経験を基に、地域との連携による特色ある教育プログラムを実施している。地域に貢献する岐阜大学として評価も高く、成果に対する期待も大きい。

学生の英語運用力・実践力を涵養するため、英語教育に実績のある外部英語学校と連携し、学部後援会からの一部補助により、希望者を対象とした課外授業を実施している。受講者のTOEIC得点が上昇し成果が現れたこともあり、他学部でも同様の取組が行われることとなった。

以上により、取組や活動、成果の状況が優れており、想定する関係者の期待を上回ると判断する。

分析項目 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

表2-1-1から、毎年概ね9割以上の学生が修業年限内で学位を取得し、全体では入学した学生の92%が学位を取得して卒業している。また、表2-1-2に示すように、ほとんどの学生が進級をしている。

表2-1-1 学位取得率の推移

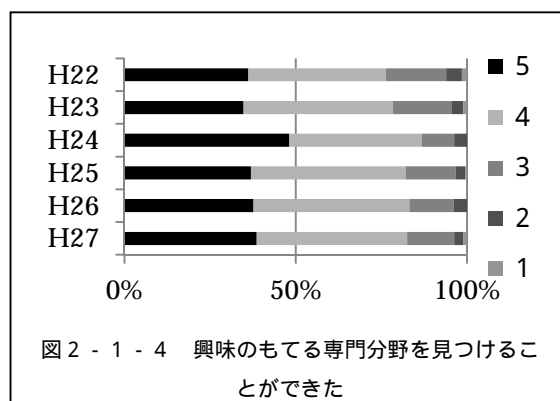
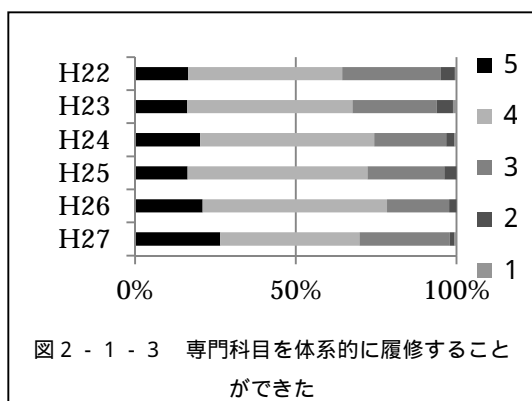
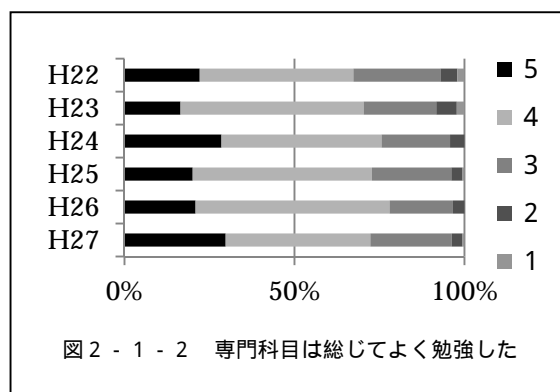
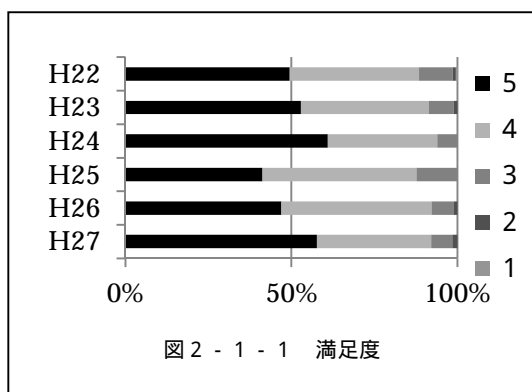
| 課程                           | 入学年度<br>(卒業年度) | 入学者数  | 修業年限内の学位取得 |        |
|------------------------------|----------------|-------|------------|--------|
|                              |                |       | 学位取得者数(人)  | 取得率(%) |
| 応用生命科学<br>課程<br>生産環境科学<br>課程 | H19(H22卒)      | 170   | 162        | 95.3%  |
|                              | H20(H23卒)      | 163   | 145        | 89.0%  |
|                              | H21(H24卒)      | 171   | 153        | 89.5%  |
|                              | H22(H25卒)      | 168   | 157        | 93.5%  |
|                              | H23(H26卒)      | 162   | 153        | 94.4%  |
|                              | H24(H27卒)      | 168   | 155        | 92.3%  |
|                              | 計              | 1,002 | 925        | 92.3%  |
| 獣医学課程                        | H17(H22卒)      | 30    | 27         | 90.0%  |
|                              | H18(H23卒)      | 30    | 26         | 86.7%  |
|                              | H19(H24卒)      | 29    | 26         | 89.7%  |
|                              | H20(H25卒)      | 30    | 28         | 93.3%  |
|                              | H21(H26卒)      | 28    | 27         | 96.4%  |
|                              | H22(H27卒)      | 27    | 27         | 100.0% |
|                              | 計              | 174   | 161        | 92.5%  |
| 合計                           |                | 1,176 | 1,086      | 92.3%  |

(出典：応用生物科学部学務係データ)

表2-1-2 進級関門毎の目標到達度(進級率)

| 22年度                                   | 23年度                                    | 24年度                                    | 25年度                                    | 26年度                                    | 27年度   |
|--|---|---|---|---|--|
| 関門                                     |   |   |   |   |  |
| 食品生命科学課程                               | 応用生命科学課程                                |   |   |   |  |
| 4年次進級時<br>4年次進級率94.9%                  | 3年,4年次進級時<br>3年次進級率97.7%<br>4年次進級率94.6% | 3年,4年次進級時<br>3年次進級率96.5%<br>4年次進級率94.6% | 3年,4年次進級時<br>3年次進級率94.0%<br>4年次進級率98.9% | 3年,4年次進級時<br>3年次進級率93.0%<br>4年次進級率98.8% | 3年,4年次進級時<br>3年次進級率93.3%<br>4年次進級率98.9%                    |
| 生産環境科学課程                               |   |   |   |   |  |
| 3年次進級時<br>進級率92.0%                     | 3年次進級時<br>進級率96.6%                      | 3年次進級時<br>進級率97.5%                      | 3年次進級時<br>進級率93.2%                      | 3年次進級時<br>進級率95.2%                      | 3年次進級時<br>進級率95.3%   |
| 獣医学課程                                  |   |   |   |   |  |
| 4年,5年次進級時<br>4年次進級時100%<br>5年次進級時91.7% | 4年,5年次進級時<br>4年次進級時100%<br>5年次進級時92.1%  | 4年,5年次進級時<br>4年次進級時91.0%<br>5年次進級時90.3% | 4年,5年次進級時<br>4年次進級時100%<br>5年次進級時97.3%  | 4年,5年次進級時<br>4年次進級時94.0%<br>5年次進級時93.9% | 5年次進級時<br>5年次進級時89.2%                                      |
|  |   |   |   | 共同獣医学科<br>各学年進級時<br>2年次進級時<br>100%      | 共同獣医学科<br>各学年進級時<br>2年次進級時100%<br>3年次進級時100%<br>4年次進級時100% |

(出典：応用生物科学部学務係データ)



(出典：卒業時アンケートの集計結果 5が最も肯定的で1が最も否定的の5段階評価)

卒業時アンケート調査 (H22～27年度) において、9割の学生が満足度に対し肯定的 (評点4以上の評価) な回答をして卒業した (図 2 - 1 - 1)。また、図 2 - 1 - 2～2 - 1 - 4 から、多くの学生が専門性を身に付けるために勉学に励み、自己研鑽の中で自分の専門性を確立していることがわかる。特に、専門科目をよく勉強した学生や体系的に履修したことを実感する学生が増えている。

獣医学課程の学生が受験する獣医師国家試験では、平成 22～27 年の 6 年間で 201 人が受験し 178 人の合格であり、図 2 - 1 - 5 のとおりいずれの年も全国平均を上回る合格率であった。

また、教員免許について、表 2 - 1 - 3 のとおり取得している。卒業時のアンケート調査では、危険物取扱者の資格を 13 名が、情報処理関係の資格を 12 名が取得していると申告した。いずれも専門性と関わりが深い資格と考えられる。

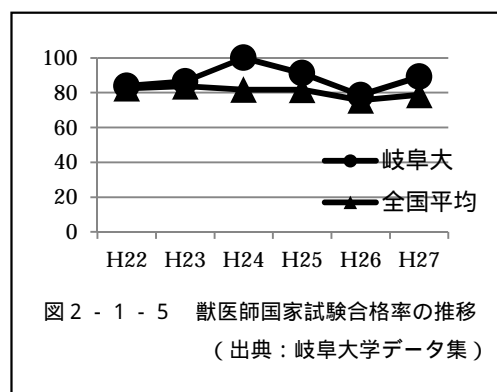


図 2 - 1 - 5 獣医師国家試験合格率の推移 (出典：岐阜大学データ集)

表 2 - 1 - 3 教員免許取得状況

| 卒業年度                 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | 合計    |
|----------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 卒業生数(人)              | 206 | 197 | 203 | 210 | 200 | 204 | 1,220 |
| 高等学校1種免許状(農業)取得者数(人) | 2   | 4   | 9   | 5   | 8   | 3   | 31    |
| 高等学校1種免許状(理科)取得者数(人) | 3   | 5   | 21  | 19  | 14  | 17  | 79    |

(出典：応用生物科学部学務係データ)

学生の受賞については、毎年受賞件数が増える傾向にあり、表 2 - 1 - 4、合計 14 名の学

生が学会賞を受賞している。また、学部学生を対象とした合成生物学の世界大会 iGEM に参加するため、学生が自発的に研究サークルを立ち上げ、平成 26 年に 9 人、27 年に 12 人の学生が大会に参加している（別添資料 2 - 1 - 1）。この活動に対し、本学及び本学部からの補助、さらに研究の場の提供、指導、引率といった教員の支援の結果、2 年連続で銀賞を受賞している。

表 2 - 1 - 4 学生の学術賞受賞の推移

| 年度      | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | 計  |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 受賞件数(件) | 0   | 1   | 2   | 4   | 4   | 6   | 17 |

（出典：応用生物科学部ホームページ）

（水準） 期待される水準を上回る。

（判断理由） 学生のほとんどが進級関門を越え学位を取得・卒業しており、安定的に教育を実施している。卒業時アンケートでは、本学部の教育に対してほとんどの学生が満足して卒業していることがわかる。同アンケートでは、多くの学生が専門科目をよく勉強した、興味ある専門性を見出したと回答し、一部は肯定率が上昇傾向にあることから、本学部の大きな教育目標である自ら勉強し高みを目指す姿勢が育まれていると考えることができる。

獣医師国家試験の合格率が毎年全国平均を上回っており、獣医学課程では獣医師養成に必要な教育を確実に実施していると言える。また、教員免許や危険物取扱者免状等本学部の教育研究内容に関連する資格取得も一定数あった。

卒業研究の段階において学会賞の受賞者を輩出していることは、学生の努力と教員の適切な指導の結果として教育成果が表出したものと考えられる。また、iGEM に代表されるような学生が自ら探求心を持ち高みに挑戦する姿勢は本学部が目指す教育の姿であり、このような学生を育む環境を整えている。

以上により、取組や活動、成果の状況が優れており、想定する関係者の期待を上回ると判断する。

**観点 進路・就職の状況**

**（観点到に係る状況）**

表 2 - 2 - 1 で示すように、2 課程において、半数弱の卒業生が大学院に進学し、3 割が企業、1 割が官公庁・公社となっている。応用生命科学課程の方が進学と企業への進路が多く、また生産環境科学課程の就職先は教員が比較的多く、進路に多様性が見られる。獣医学課程では、小動物臨床への進路が 4 割を占め、続いて公務員、企業となっている。全体として、同課程ではその特殊性から進路先の多様性が比較的低いという特徴がある。

表 2 - 2 - 1 卒業生の進路先（平成 22～27 年度卒業生の合計）

|        | 応用生命科学課程 |       | 生産環境科学課程 |       | 計    |       | 獣医学課程  |     |       |
|--------|----------|-------|----------|-------|------|-------|--------|-----|-------|
|        | 人数       | 率     | 人数       | 率     | 人数   | 率     | 人数     | 率   |       |
| 大学院進学  | 262      | 51.8% | 227      | 43.5% | 489  | 47.6% | 小動物臨床  | 78  | 40.6% |
| 企業     | 175      | 34.6% | 135      | 25.9% | 310  | 30.2% | 公務員    | 44  | 22.9% |
| 官公庁・公社 | 30       | 5.9%  | 79       | 15.1% | 109  | 10.6% | 企業等    | 24  | 12.5% |
| 農業団体   | 6        | 1.2%  | 15       | 2.9%  | 21   | 2.0%  | 大学院進学  | 14  | 7.3%  |
| 教員     | 9        | 1.8%  | 19       | 3.6%  | 28   | 2.7%  | 産業動物臨床 | 10  | 5.2%  |
| その他    | 24       | 4.7%  | 47       | 9.0%  | 71   | 6.9%  | その他    | 22  | 11.5% |
| 計      | 506      | -     | 522      | -     | 1028 | -     | 計      | 192 | -     |

（出典：応用生物科学部学務係データ）

平成 22～26 年度の卒業時アンケート調査において、「希望した進路先に進めたか」との質問に対し、8 割の学生が肯定的な回答をした（表 2 -2 -2）。年度ごとに見ても、希望通りの進路先の割合が年々大きくなる傾向が確認できる（図 2 -2 -1）。また、同アンケートでは 72.4%の学生が進路先と専門性に関連があると回答しており、多くの学生は修得した専門性を活かした進路先に進んでいると言える。

表 2 -2 -2 希望した進路に進めたか（平成 22～27 年度合計）

|     | 強く思う  | 思う    | どちらとも言えない | 思わない | 全く思わない | 合計     |
|-----|-------|-------|-----------|------|--------|--------|
| 学生数 | 578   | 282   | 139       | 32   | 19     | 1,050  |
| 率   | 55.1% | 26.9% | 13.2%     | 3.0% | 1.8%   | 100.0% |

（出典：卒業時アンケート調査の集計結果）

平成 25 年 12 月及び平成 27 年 4 月に企業説明会を実施した際、その企業で働いている卒業・修了生に関するアンケート調査を実施した。卒業・修了生の印象を尋ねたところ、9 割以上の企業担当者が「非常に良い」「良い」と肯定的な回答を示した（表 2 -2 -3）。平成 27 年 4 月開催の説明会において、さらに良い点は何かと尋ねたところ、半数以上の会社が基礎知識や協調性を選択し、人間力や積極性、専門知識も良い点として選ばれていた。（表 2 -2 -4）

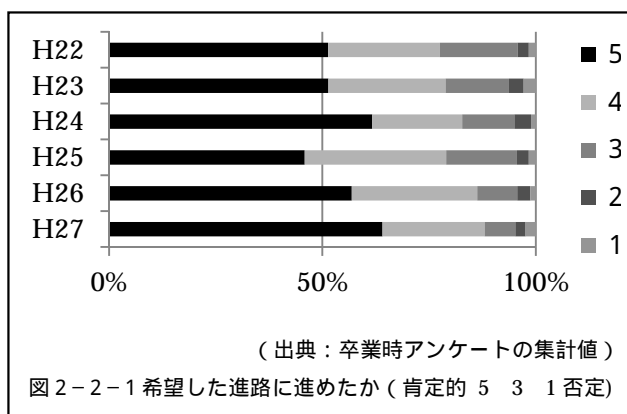


図 2-2-1 希望した進路に進めたか（肯定的 5 3 1 否定）

表 2 -2 -3 働いている卒業・修了生の印象（就職担当者）

|           | 第 1 回企業説明会 1) |       | 第 2 回企業説明会 2) |       |
|-----------|---------------|-------|---------------|-------|
|           | 回答数(件)        | 率     | 回答数(件)        | 率     |
| 非常に良い     | 17            | 47.2% | 19            | 40.4% |
| 良い        | 17            | 47.2% | 27            | 57.5% |
| どちらとも言えない | 2             | 5.6%  | 1             | 2.1%  |
| 悪い        | 0             | 0.0%  | 0             | 0.0%  |
| 非常に悪い     | 0             | 0.0%  | 0             | 0.0%  |
| 計         | 36            | -     | 47            | -     |

1)平成 25 年 12 月 4 日開催 2)平成 27 年 4 月 4 日開催

（出典：卒業・修了生に関するアンケート調査結果）

表 2 -2 -4 本学部卒業生の良いところはどこか（複数回答可 回答数 52 件）

|        | 基礎知識 | 協調性  | 人間力  | 積極性  | 専門知識 | 倫理性 | 独創力 | 英語力 |
|--------|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|
| 回答数(件) | 28   | 27   | 18   | 15   | 10   | 5   | 4   | 1   |
| 率(%)   | 53.8 | 51.9 | 34.6 | 28.8 | 19.2 | 9.6 | 7.7 | 1.9 |

（出典：卒業・修了生に関するアンケート調査結果）

（水準） 期待される水準を上回る。

（判断理由）本学部では約半数の学生が大学院に進学しており、卒業時アンケートの結果では 8 割前後の学生が希望通りの進路を、7 割以上の学生が専門性を活かす進路を選択し

## 岐阜大学応用生物科学部 分析項目

ていたことから、多くの学生が希望通りに進路を決めることができる状況であると言える。

企業担当者に対しアンケート調査を行った結果、本学の卒業者を非常に高く評価していることが明らかとなった。その理由として、基礎知識と協調性を挙げる企業が多く、さらに人間力、積極性が挙げられていた。本学部の学位授与の方針と照らし合わせたとき、「基盤的能力と自然科学の基礎知識を習得し、対人関係を築き、行動できる」という目標に合致する結果である。

以上により、取組や活動、成果の状況が優れており、想定する関係者の期待を上回ると判断する。

「質の向上度」の分析

(1) 分析項目 教育活動の状況

1. 共同獣医学科の設置

より高度な専門的獣医学教育を行うため、平成 25 年度に鳥取大学農学部との間に共同獣医学科を設置した。これは平成 21 年度に採択された「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」を発展させたものであり、新たに「獣医倫理・動物福祉学」「動物行動学」等の必修科目を設置し、遠隔講義や表 3 - 1 - 1 のとおり学生移動を伴う講義・実習を開始した。さらに、連携教育の円滑な実施のため両大学に共同獣医学教育開発推進センターを設置し、共同教育全般の調整・管理や臨床共同教育の開発等に取り組んでいる。

これらは第 1 期の取組を発展させたものであり、第 1 期に比べ、教育活動の質が向上したと判断できる。

表 3 - 1 - 1 学生移動を伴う対面授業（実習）の実施状況

| 年度  | 対面授業（実習）の実施状況   |
|-----|---|
| H25 | 岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科 1 年生：「大学教育導入演習」(鳥取・大山にて)<br>岐阜大学獣医学課程 4 年生：「人獣共通感染症学実習」(鳥取大学にて)<br>鳥取大学獣医学科 5 年生：「獣医公衆衛生学実習」(岐阜大学にて)  |
| H26 | 岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科 1 年生：「大学教育導入演習」(鳥取大学・鳥取大山にて)<br>岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科 2 年生：「大学教育導入演習」(岐阜大学にて)<br>岐阜大学応用生物科学部獣医学課程、鳥取大学農学部獣医学科 4 年生：「人獣共通感染症学実習」(鳥取大学にて)<br>岐阜大学応用生物科学部獣医学課程、鳥取大学農学部獣医学科 5 年生：「獣医公衆衛生学実習」(岐阜大学にて)  |
| H27 | 岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科 1 年生：「大学教育導入演習」(鳥取大学・鳥取大山にて)<br>岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科 2 年生：「大学教育導入演習」(岐阜大学にて)<br>岐阜大学応用生物科学部獣医学課程、鳥取大学農学部獣医学科 4 年生：「人獣共通感染症学実習」(鳥取大学にて)<br>岐阜大学応用生物科学部獣医学課程、鳥取大学農学部獣医学科 5 年生：「獣医公衆衛生学実習」(岐阜大学にて)<br>岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科 3 年生：「公衆衛生学実習」(所属しない大学にて) |

(出典：担当者からの報告)

2. 教育の質保証体制の整備と教育改善の実践

平成 22 年度に教育改善室を設置し、検証を改善に結びつける仕組みとして機能させ、授業評価アンケート結果の授業改善への活用、初年次教育改革など、多くの教育改革を推進してきた(別添資料 1 - 1 - 1)。その結果、学生による授業評価のポイントは上昇し、卒業時アンケートの結果も向上している。例えば、「本学部で学んだことを誇りに思うか」との質問に対して、第 1 期中期目標期間に比べ、明らかに肯定的な回答をする学生が増えている(図 3 - 1 - 1)。

さらに、教育評価システムの構築により、第三者による教育組織の客観的評価が可能となり、表 3 - 1 - 2 のような改善に取り組んだ。

新たに教育の質保証体制を整備して改善に取り組み授業評価等の向上が見られることは、第 1 期に比べ、教育活動の質が向上したと判断できる。

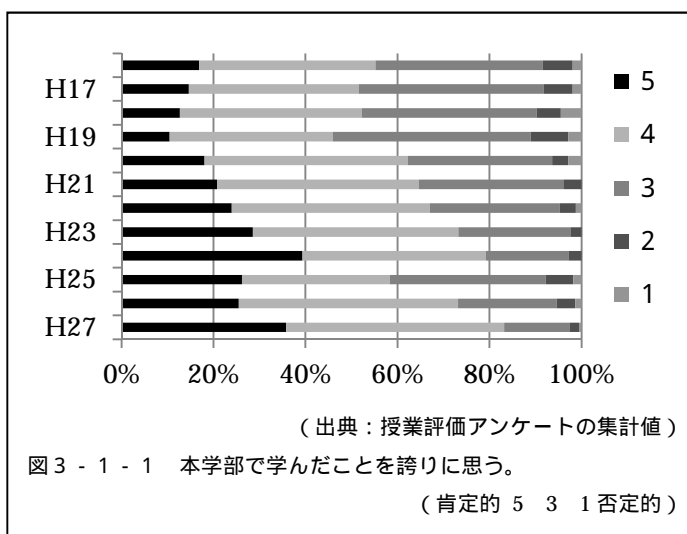


図 3 - 1 - 1 本学部で学んだことを誇りに思う。

(肯定的 5 3 1 否定的)



表3-1-2 教育評価システムによる改善事例

| 年度  | 対象         | 明らかになった課題                                 | 対応策  |
|-----|------------|---|--|
| H26 | 共同獣<br>医学科 | ・定員削減によって生じた若手教員の不足<br>・従来から課題であった女性教員の不足 | 平成 27 年度の本学科の人事はすべて助教のみとなり、女性限定の公募も実施されることとなった |

(出典：第三者教育委員会答申 H27.2.3 等)

### 3. 地域社会に貢献する人材養成のための教育プログラムの開発

これまで取り組んできた「風土保全プログラム-ぎふ公民館大学-」を踏まえ、平成 26 年度から教育プログラム「地域ブランドと地域振興(飛騨牛倶楽部)」を開始した(表3-1-3)。本プログラムでは、従前のプログラムに地域振興の観点を加え、ブランド力をテーマとすることで、教育プログラムとしての質の向上を図った。プログラム終了時に実施した報告会では、JA全農岐阜、岐阜県等の地域の関係者約 50 名も参加し、学生の発表に対し積極的な質疑・コメントがあった。低学年の授業に、多くの関係者が大学に集まり、新聞報道もされたことから、地域からの期待の大きさを窺い知ることができる。

これは第 1 期の取組を発展させたものであり、第 1 期に比べ、教育活動の質が向上したと判断できる。

表3-1-3 地域ブランドと地域振興(飛騨牛倶楽部)の受講者数

|         | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 |
|---------|----------|----------|
| 受講者数(人) | 11       | 21       |

(出典：応用生物科学部学務係データ)

#### (2) 分析項目 教育成果の状況

##### 1. 学生が主体的に学習を行うための英語学習環境の整備とその成果

本学部の教室の講義時間外活用及び学部後援会からの補助により、平成 25 年度から外部英語学校と連携した「TOEIC スコアアップ特別講座」を開講し、学生の英語学習環境を整えている。その結果、TOEIC-IP テストにおいて、平成 25 年度前期は、受講前後で TOEIC-IP テストを受験した 28 人中 19 人の成績が上がり、平均点 495 点(63 点上昇)となった(図 1 -2 -3)。同年後期では、受講者 32 人中 27 人の平均点が 537.8 点とさらに上昇がみられた。

ここから、第 2 期から新たに開始した英語学習環境の整備により、第 1 期に比べ、教育成果の質が向上したと判断できる。

##### 2. 企業からの評価による教育成果の把握

卒業・修了生を雇用している企業に対して、アンケート調査を 2 回実施した(表 2 - 2 - 2、2 - 2 - 3)。卒業生は真面目であるとの評価が多く、本学部の伝統である凜乎真摯の精神を育ててきた結果と考えている。また、本学部卒業生・修了生の良い点として、半数以上の企業担当者が基礎知識や協調性を選択し、人間力や積極性、専門知識も挙げていることから、本学部の学位の授与方針である学士たるリテラシーと一般的な社会通念を備え、専門的な能力をもった人材を育成していることが確認できた。

これにより、第 1 期では明確ではなかった企業からの評価を以て、本学部の教育成果の質が高いことが示された。